

月曜 スマイル

火曜 老舗探訪

水曜 達人

木曜 メディカル

脳卒中は国内における死因の第4位となっている。発症するとまず生命の危険にさらされる。救命に成功しても後遺症が多い。寝たきりになる人も少なくなる。

後遺症が重篤なことが多く、術が一般的だったが、近年では寝たきりになる人も少なくなっている。

従来、脳疾患の手術は開頭手術が一般的だったが、近年では寝たきりになる人も少なくなっている。

脳疾患治療は難しい。他の内

科的手術に比べ、合併症がおこる可能性も高く、デリケートな

部分を触ることで、かえって異常が起きる場合もある。脳ドツ

クで脳内に動脈瘤が発見され来院する患者もいるが、

動脈瘤の場所や大きさなどによっては必

とされ、近年注目が高まっているのが「血栓回収療法」という

治療法。これは万一本管が詰まつても早急に再開通することで

症状を軽く抑えることができる

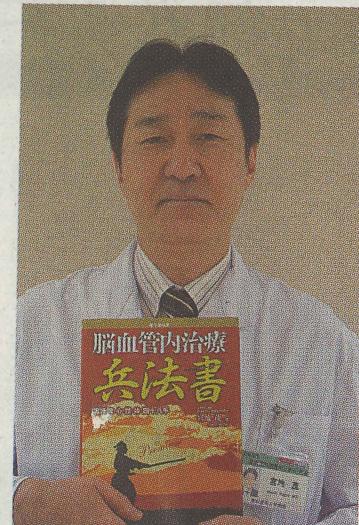
という。愛知医科大学病院も、他の県内3大学と協力してその

普及に尽力しており、当該4大

学の附属病院はもとより、関連病院でもこの治療ができる環境を構築すべく活動中だ。宮地先

愛知医科大学 脳血管内治療センター センター長

宮地 茂先生



自著を手にする宮地先生

DOCTORが薦める 名医

「血栓回収療法」普及に力 激務の合間に専門書執筆

カテーテルを用いた脳血管内治療が発達し、確実にその実績を伸ばしている。

2017年4月に愛知医科大学

学病院に「脳血管内治療センター」が新設された。最新の脳血管内治療の実施や普及・発展を目的とした部門だ。

この脳血管内治療センターのセンター長を務めるのが宮地茂先生。「欧米では脳のカテーテル手術はかなり普及していますが、日本ではまだまだ。今後より一層発展し、1人でも多

くの患者さんを救えるよう、術の願いだ。

式のレベルアップはもちろん、後進の育成も図っていきたい」と、仕事に賭ける思いを熱く語る。

脳疾患治療は難しい。他の内科的手術に比べ、合併症がおこる可能性も高く、デリケートな部分を触ることで、かえって異常が起きる場合もある。脳ドツクで脳内に動脈瘤が発見され来院する患者もいるが、

急性期の脳塞栓症に対し有効な治療法が確立され、近年注目が高まっているのが「血栓回収療法」という治療法。これは万一本管が詰まつても早急に再開通することで

症状を軽く抑えることができる

という。愛知医科大学病院も、他の県内3大学と協力してその

普及に尽力しており、当該4大

学の附属病院はもとより、関連病院でもこの治療ができる環境を構築すべく活動中だ。宮地先生はその中心メンバーでもある。

そんな宮地先生の氣分転換は仲間と食事に行き、お酒を飲みながらあれこれ話題を広げ、医学博士たるところだ。

ただ、少しでも救命率を上げ

たい、後遺症も少なくしたい、

そういうのは宮地先生をはじめ脳

血管外科にかかる全ての医師

3311

う。

「一度インフルにかか

名古屋大学医学部附属病院先端医療・臨床研究支援センター副センター長・水野正明先生の紹介

MEDICAL HEALTH

インフルエンザが大変 感染しやすくなります
なことになっている。国 と警告するのは医学博士